

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600103		
法人名	株式会社実喜		
事業所名	京塚温泉グループホーム笑みの里暖輪		
所在地	群馬県吾妻郡中之条町大字入山3257		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	令和5年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

京塚温泉の源泉を引いており、いつでも入浴が出来き心身共に和らぎます。自然も豊であり春から秋にかけて庭先の草花と触れ合ったり、小さな畑を作り実りの頃には収穫し季節を感じています。また地域の協力病院と連携し、月に2回往診に来て頂いています。そして入居者様一人一人に合った介護が出来るようにスタッフ一同連携・相談をして入居者様の状態を把握できるように心掛けています。入居者様が地域の一員である事を忘れないように今後も、夏祭りや地域合同文化祭に参加したり、地域の踊りや歌などの慰問ボランティアの方に来所してもらうようにします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で利用者、家族がなかなか思うように会えない中、関係性が途切れないよう担当職員が利用者の様子を綴ったメッセージや写真を隔月で郵送し、双方に安心をもたらし支援をしている。事業所にとって一番の使命は、利用者の現在の様子をそのまま伝えることで、十分な面会ができない今、重要な役割を果たしているといえる。また、長期に亘った終末期に看取り支援に取組み、利用者の最期を家族と見守ることができた。支援する中で利用者が好きな食べ物を用意し、幾分元気を取り戻したこともあり、家族にとっても悔いのない看取りとなった。運営者、職員が日々の積み重ねを大事にし、成長を続けてきたことで利用者、家族から信頼され、一人の人が人生を閉じる瞬間まで支援をやり遂げることができた。反省点はいろいろあると思うが、この経験を今後活かしていくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『その人らしい生活が出来る介護』を理念としている。入居者への支援が統一して出来るように、申し送り・カンファレンス等を毎日行っている。	職員の一方的な支援が利用者の日常生活の妨げにならないよう、管理者は理念に基づいて利用者の気持ちに寄添った声かけや対応を指導し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	雪が降る季節以外は、近隣を散歩し地域の方と話をしたり、夏祭り・文化祭などに参加し交流の場を持てるようにしている。また地元のテレビ番組がありそれを観て地域の様子を知ることが出来る。	コロナ禍にあり、小学生との交流や地域の祭、文化祭が中止となり、地域とのつきあいができなかったが、地域の情報は小学校からのカレンダーや協力的な役場の防災担当者から得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の会場にて皆様に、意見を頂きサービスの向上に努めている。また会場に集まらない時は郵送にて書面で行っている。	書面開催とし、入居者現況報告、誕生日会や食事作り等のレク、ドライブ等の実施内容をまとめた行事報告を「運営推進会議報告書」として、隔月で家族や町役場に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に施設の利用状況などを相談し、協力関係を築いて行くように心掛けている。	事業所の防災対策について役場の防災担当者と協力、連携し強化を図っている。また、管理者、ケアマネジャーが介護保険の更新代行、認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーマット使用は拘束である事を理解し、家族に同意を取り使用している。スタッフの配置状況により出入口を手動にするように心掛けて居る。	玄関は電子錠であるが、手動にするよう心がけており、センサーマット使用時はカンファレンスを経て家族の同意を得ている。身体拘束については対応マニュアルはあるが、勉強会には行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で虐待について話し合い理解し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要になった場合 関連施設、町の担当者 と相談し協力して支援をして行きたいと考えて いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約の際は入居者様、その家族に理解しや すいように説明し契約を十分理解して頂き 契約をしている。解約の際も同様に話合い 合意の上で解約をする様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	苦情の申立ての説明をする様に努めてい る。また入居者様、ご家族様にどのような要 望が有るか、会話の中でくみ取れるように心 掛けている。	日常的に利用者が発する言葉を拾い、朝の 申し送りで共有し、プランに反映させることもあ る。利用者との面会が難しい今、家族には隔 月で担当職員から様子を伝えるメッセージや 写真を送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り等で情報交換や相談、それ らを共有できるようにしている。またスタッフ から業務改善の提案があれば話し合いより 良い運営が出来るよに心掛けて居る。	職員の新旧に関わらず、まんべんなく意見や 提案ができる雰囲気がある。申し送りの際の ミーティングで当日の支援内容や改善につな がる意見や提案を出し合い、試行し、支援の 向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	スタッフ個々の状況を把握し、意見を聴きな がら向上心を持って働ける職場環境になる よに努めている。また状況に応じて実践を 評価し昇給を考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	外部の研修や交流会に参加してもらうよう 促し、技術・知識・質の向上に向け実践に繋 がる様に考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	町や近隣の病院のソーシャルワーカーか ら、情報交換会・交流会の案内を貰い参加 することで質の向上になる様に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様がいる時には事前にスタッフ間で情報を確認している。入居後は慣れるまで表情や言動を観察し安心して生活が出来るように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様、ご家族様に会い入居前の生活状況を伺い、何に困っているのか 何を必要としているのか確認しそれに合ったサービスが出来るように心掛けて居る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を伺い、それに合ったサービスの提供に努めている。入居後も希望に沿って生活出来るように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日がマンネリ化しない様に苦痛にならない様に嗜好に合った暮らしやすい環境を整え、その人に合った接し方をする様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、生活情報や食事変更など常にお話をしご意見を伺い今の生活が良い状態である様に共に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様と馴染みの人や、場所との関係性を理解し支援に努めている。	届いた手紙に自筆で返事を書く利用者の支援をしたり、送られてきた孫やひ孫の写真に対して、利用者の写真を送っている。また、外部からの電話を取次ぐ等、関係性の継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のトラブルが起きない様に入居者様同士の性格の不一致や言動に日々注意している。また入居者様同士で助け合い生活出来るように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際には、終了後も相談しやすいように声掛けをするように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様がどのような生活を望んでいるか入居前に確認し、希望に沿った生活が出来るようにしている。	利用者から具体的な思いや意向を聞き出すことは難しいが、日常的に話をする中で把握することを心がけている。転ばない、機能を落とさない、歩き続けたいという思いをプランにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴や面会時に聴いた情報を共有し、その方らしい生活が出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や往診、受診した情報などを記録し情報を共有して現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様本人、家族、必要関係者と話し合い、意見や要望を聴いた上でご本人様にとってより良い生活が送れるように介護計画を作成している。	業務日誌の中に「モニタリングに基づいて」といった欄があり、プランの実施状況を記録し、毎月モニタリング記録表にまとめ、3ヶ月ごとのプランの見直しや担当者会議に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況やADL、往診時の様子など状態把握をスタッフ間で徹底しており、状態の変化があれば話し合い介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が日々の生活の中で生じる様々なニーズに寄り添えるような柔軟なサービス提供が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を理解した上で活用し、入居者様が穏やかに安心して生活が出来るように心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居説明の時にかかりつけ医の確認を行っている。協力病院の受診で良ければ月に2回の往診があると説明し、入居者様、家族様の希望を聴き適切な医療を受けられる様に努めている。	毎月2回、六合村医療センターの協力医(内科)と看護師の往診があり、皮膚科は今迄のかかりつけ医に受診している利用者もいる。歯科は必要に応じ診療所から訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の後は状態把握ノートに記入し看護職員に伝達し施設内でも的確な看護が提供出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様、が入院した際には、入院先の地域医療連携室と連携をとり入居中の情報、入院先での情報などを交換、把握しあい入居者様が早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化、終末期には今後起こりうる状態を本人様、家族様、協力医、地域関係者と話し合い適切な支援が出来るように考えている。	「ここで最期を迎えてほしい」という家族の希望に沿って、協力医、訪問看護の支援を受け看取りを実施した。長期に亘る支援、家族との関わりを経験し、反省点や感謝の思いを次につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、スタッフ同士で共有している。救急車の要請マニュアルを作成、どのスタッフにも対応できるように掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している小規模多機能と協力し合い避難出来るように訓練している。火災、水害を分けて訓練し京塚の公民館に避難出来るよう地域と連携している。また食糧や水、オムツなど備蓄は用意している。	水害や火災を想定した総合避難訓練を実施している。実際に車両1台に3人の利用者を乗せて避難場所まで行き、避難に必要な時間の計測、把握に努めている。食糧品、排泄用品を備蓄している。	避難訓練、自主訓練を計画的に実施してほしい。また、その訓練の実施記録を残し、安全な避難場所の確保等、今後の拠点作りに取り組んではいかがか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの人間性を尊重し、声掛けを行い対応している。また個々が過ごされる時間を作り、傾聴するなど安心して生活できるようにしている。	異性介助や排泄、入浴時の利用者の羞恥心に配慮した声かけや見守りを心がけている。利用者の席は凡そ決まっているが、利用者間の相性等を考慮し、一人ひとりを尊重した場所を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが余裕をもって行動し、慌てず対応できるように心掛けている。その事で入居者様が思っている事、感じている事などを話しやすい環境や人間関係を築けるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望を聴き、希望に沿った生活が行えるよう、毎日取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望時に美容師による訪問散髪が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめる様、毎日の献立を掲示し食事の前にはそれを読み上げている。またその献立の話をする様にしている。食後には要望に応じスタッフと一緒にお膳を下げたりテーブルを拭いたりしている。	食事作りは職員が担当している。食事の前には口腔体操と献立の説明をし、食事を摂る準備を習慣化している。飲み物は利用者が選択し、毎日の献立は利用者がホワイトボードに書いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況は毎日観察し、水分補給状況は年間を通し観察し飲み物の種類を増やし好みや健康状態に合わせ摂取できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別に声掛けを行い、口腔ケアを行っている。入居者様個々のADLに合わせた見守りや軽介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居様それぞれの排動作の状態を把握し、その方に合った支援が行えるように努めている。そして入居者様の状態変化などがあった場合、その都度検討するように心掛けている。	利用者の多くが自立者でチェック表に基づいて、また、利用者の行動やタイミングを見計らってトイレ誘導し、その後確認している。夜間はおむつやポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の予防改善に心掛けている。定期的な運動や水分補給を行う様に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表は無い。入居者様の希望に体調を見ながら実施をしている。	入浴の予定表はあるが、声かけをして希望があれば毎日でも入浴できる。拒否のある利用者には、入浴を促す言葉がけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が安眠できる様、ご本様の使い慣れた寝具を持ち込み可能としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員で内服薬情報を共有している。内服薬変更があった場合は申し送りや状態把握ノートに記入をし、スタッフ全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や面会時に聴いた情報を元にその方に合った生活や時間を過ごして頂ける様、支援できる様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望があれば、その方の希望に沿って付き添っている。また外出時には家族の方と連携を取り合い、外食や自宅に寄るなど、希望に沿って外出が出来るように支援している。	コロナ禍でこれまでのような外出はできないが、利用者の希望に沿って散歩に行ったり、ドライブで車内からお花見をしている。また、家族と受診後に自宅に寄ったり、外食を楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出で買い物に行く時は可能な限りスタッフが付き添い、見守りながら会計をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望がある時はご家族と相談し、伺っている電話番号に電話をかける様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天窓から自然の光が入る様に成って居る。入居者様一人ひとりのスペースは広くゆったり過ごせるようになっている。また入居者様と製作した季節などの壁画や作品を飾り、春夏には庭先の草花を飾ったりしている。	日めくりカレンダーがあり、手作り作品や庭に咲く花を飾り季節感を出している。窓際にソファを置き利用者や職員と話をする空間作りをし、換気扇を用いたり、窓を開け、空気の清浄を心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では気の合う入居者様同士同じテーブルの席にしたり、誰でも座って過ごせるベンチを設け、気持ち良く過ごせるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた寝具や家具、食器などの持ち込みできる事を伝えている。また家族やペットの写真を飾って過ごしやすい居室作りを心掛けている。	入居時に使い慣れた物を自由に持ってくるよう説明し、筆筒やテレビ、寝具、食器、自宅で飾っていた物を持ち込み、馴染みある、その人らしい居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居様一人ひとりの残存機能を理解し、スタッフが共有してそれを踏まえてそれぞれの方に合ったケアを行う様にしている。		